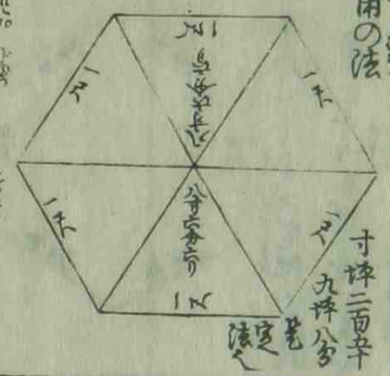
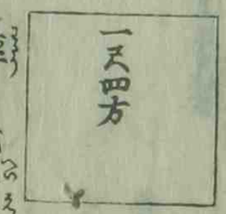
扨又六角の定法を二五九八とせい。面まで天の六角中一寸四方の坪ゟ二百九十九坪八分ゟ出る。

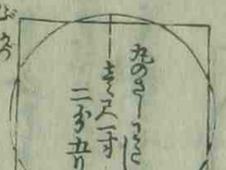
六角の法



法を求る術六角の面まで天ゟ時は半の持ゟ。天七寸三分三厘ゟ出る。と云ふ。これ八寸六分六厘ゟ出る。面一天と二寸四分三厘。

右も径まで天の平方の数七十九歩開平法ゟ除ゟ。



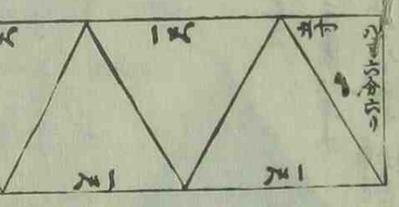


又角と多ゟ。

○扨また。一まで二五とゟ。

六方とゟる時二五九八ゟ成れよう。

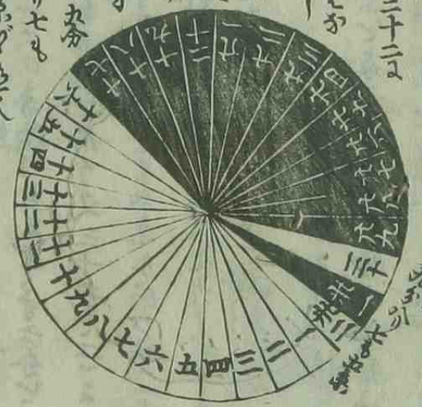
法いろいろ

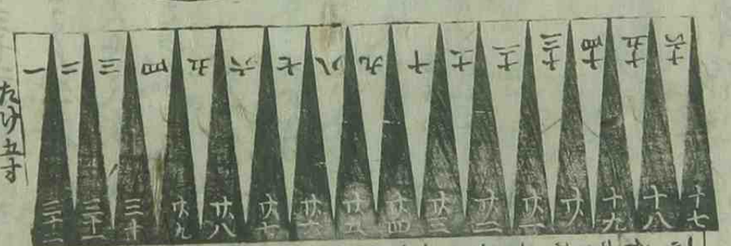


○六角の起

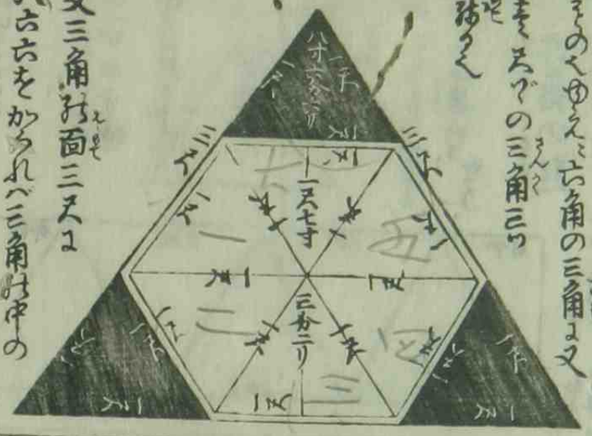
六角の坪ゟ一天ゟ。

○扨また。一まで天の丸ゟ一寸四方の坪ゟ七十九ゟ。





六角のをもうに分けてく面三尺の三角より面まで尺の六角と出せ〜そのくゆえ六角の三角より又まで尺での三角三つ



又三角形面三尺より八六六をかゝれば三角形中の六角中形三角一つ分の坪

径一尺の系迫り三尺まで寸六分と三十二引別ば九分八厘七毛五系でなり又三十二を二つまるれば一方十六つなり毛より九分八厘七毛五系をかゝれば一尺五寸八分九厘なり

五寸をかゝる時は七九と成ゆえ系法と七九と定めし又系の開を両方ゆ重ねて食せ後一三四六をかゝれば坪ゆ成ゆえ〜〜〜〜まで尺の迫り三尺一寸六ぶと成方重なる時寸坪九百九十八五六なりと中坪七九をかゝれば一三六四となるゆへ十二坪六分四厘引て八坪一となるゆえ又七九一を四をかゝれば坪一と成ゆえ右同ト心持し要〜〜別材る時は毛ゆをめ〜やらうなり

○開立系法の術　四隅術ともいふ

寸四方六面の坪三十五万九千四百十五坪四分三厘毛ゆ径何程と問ふ答へ九尺ゆ成と

術曰坪ゆを八角の定法とゆふ四八二八四をかけてかゝれば八十一坪と成毛と開平とをかゝて除べ八尺の面となる〜〜

又六の九尺面の八角の坪ゆと

八寸六分六厘二毛引べ除べ〜〜

また尺七寸三分二厘毛六角の平と平とのくゝるまり但〜三角六つ合せて六角と成

○八角の法

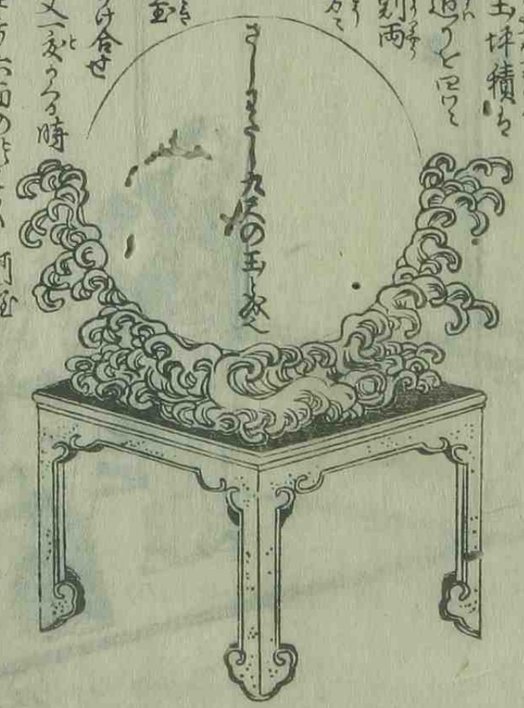
尺四方ゆ坪三百九十一坪一分〇四毛を八角〜〜七一方ゆ面行程ゆ成〜〜

答へ〜九尺ゆ成と

術曰坪ゆを八角の定法とゆふ四八二八四をかけてかゝれば八十一坪と成毛と開平とをかゝて除べ八尺の面となる〜〜

又六の九尺面の八角の坪ゆと

術曰積数と開立法を以て除た後七九を以てかゝれ

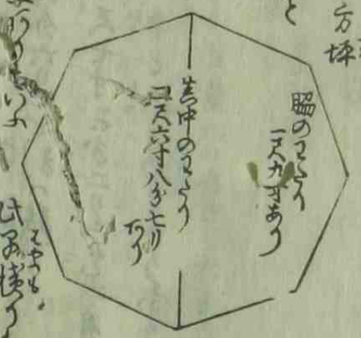


ゆ積ゆ玉坪積ゆ迫ると四つ別両方〜〜〜〜

積るときハ面九尺と両方をきり合せ定法の四八ハ八ニと掛くれば三百九十一坪一分〇〇ニとなる

八角の坪

八角の坪つもり面の寸とをとゝ大小ともかきるとやがてあり たとへば五〇ハ八角のもの一ツ一寸ニ方坪 ハ径と



面とをとゝ

真中ハ角ハ角のこゝろと

此ハ方ハ方のこゝろ

弐尺六寸八分七厘

真ハ脇の角ハ角のこゝろと

こゝろを尺九寸なるべし

此角中のこゝろ二尺六寸八分七厘

脇一尺九寸を加へれば坪つゞまる

なり

又八角のとみこゝろ二尺六寸八分七厘と両方を寄せ合せ一四一四二きとこゝろこゝろもこゝろ同坪と成

又平ハ平の径をとり合せて

後一三〇七きとなりけれども同

八角ハ面ハ二四一四一をかゝるべ

産鋪ハ圍爐裏を入る筧

八角ハ面ハ中ハ角と加へるかゆゑハ

圍爐裏を入るゝとの時の積り

別ちハ数二ハ四方く統ハ六尺のハ

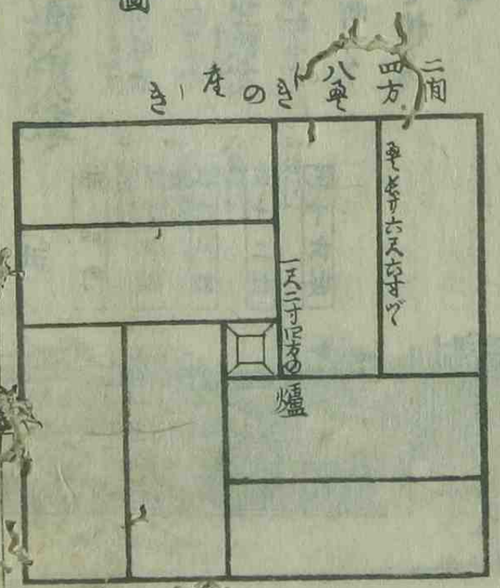
此角ハ六二寸四方の爐ハ

真と四ツハ刻ハ弐尺七寸六厘

一ツハ五尺四寸ハ炉のこゝ二寸を加へ六尺六厘

あるべし

圍爐裏切入る圖



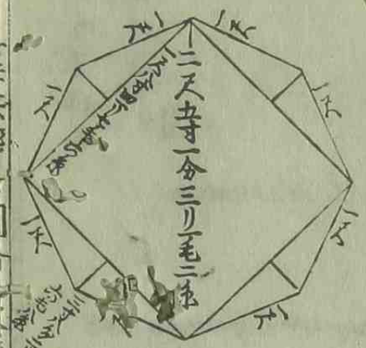
長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

平よう平へのうくうまつくし
又面の寸法は二お一三二をされば
角と角とのうくうまつくし

八角の法四八二八四の起

八角を發ル時一天ハ方の角のうく
のびハ一分ハリ二毛一糸ハリ
毛を二つ小割べ二寸七リ一毛〇五ぐ
みこ

ハ方ハ二寸〇七リ二毛〇五を両方小至うけ
四二八九二四八〇二五と分文を天を
二ツ小うう五寸分毛と両方小をき
うけ合せ廿九と分毛を右加廿九二八九
二四八〇二五と分毛と申平法小て除時ハ
八角のたをもて五寸ハぶ一リ一毛九糸五ハ
とおくを又法をいぐ八時毛とおく
面を天の八角をはくくたる



○掛算積入員の筆

十六数引 西四町
十四数引 二十四牧
十二数引 二十八牧
八数引 三十二牧
四数引 三十六牧

西

中三町
等分 四十牧
四十牧
四十牧

中

東八町
三数引 三十七牧
六数引 三十四牧
九数引 三十一牧
十二数引 二十八牧
十五数引 二十五牧
十八数引 二十二牧
十九数引 十九牧
廿四数引 十六牧

東

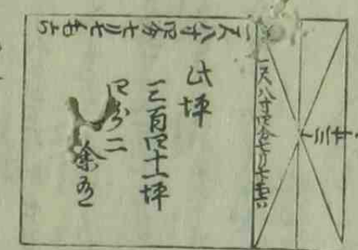
ちくよ掛二ケ所あ
もしふんちくふ
ハ百五拾二牧入
ちくふ掛がハ
町内十五町
ハ町掛と掛ハ
中小三町
西結小四町
東結小八町
めく十五町ちい
時小中の三町ハ
入用ハ等分く
西結四町を町無

中町よりハ牧ぐ
次第小未を減ト
東結八町ハ町無
中町よりハ次第を二牧
ハぐ未まで減ぐると
いふハくう方ちくく
とふ差へ下小
易ちくぐ
術ハ先四百五二牧
と至ぐ別ハ西結の
町数を二三ハ合せて
拾よ分毛を減ぐ
ハ牧をうけてハ掛牧
と分毛と四百五十二
牧加又東結の町ぐ

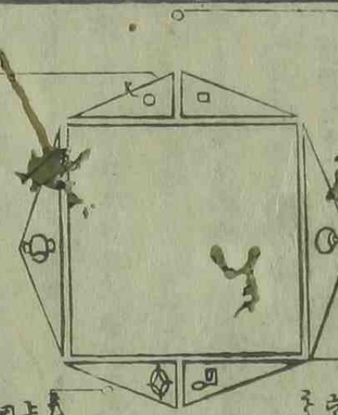
長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

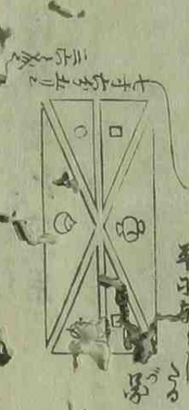
八角を平坪に
なるべし

合四分
二八四
余
見切
四八
二八四の



角坪は五尺差ハ広さ
四のごとくふちを廻して平な
ればなり





一三三四五六七八合せて三十六見切減ずる三枚とうけ百八枚と
なる見も又百五十二枚百十枚二百の上へ加へ三百合せて六百枚と
見と数町数十九町四方の田枚と為るなり見切中三町
なるかの出法と為るべし中三町の紙数を拾ひ取れば
東西をそなめよりは例のごとく西を五町に枚とすれば二
町めハ八枚さらにさらに四さげて行すり来る三枚づ
まるべしかく算用をなすべしいたの図のごと

猟師獲物の算

猟師なるものふうけて得なる所と淡路ゆくなる所の
狸と両方なるべし百弐足なるべし足数三百なるべ
ゆ右の間屋竹形狸分足あるべし問
答へ屋九拾羽　代なるべし数百八十本
狸三十疋　代なるべし数百弐十本
なるべし問弐拾疋　皇叔狸のなるべ

引ハ法なるべし弐本
弐百四十疋なるべ　代二本と右百弐疋ゆくけなるべ
なる見と法の二ま新べ三十疋なる見切ち狸三十疋の数
ときなるべしまるべ　三百ゆくなるべ三百四十本なれば三百の内
ゆく百廿本引ハ残なるべ百八拾本こ見とよるべ
屋九十羽となるなり

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

積拂增利算用

仮令ば買掛ゆきて引わたし賣ものの代りに又二つ三つ買ものの代りたくはへ置ものの代一箱代拾匁く先と十匁賣

先八匁の八拾匁く拾匁と拾匁く箱十ヲ小二箱を入れ代

式百匁を十ヶ月一箱代

八匁三分三厘三毛宛

二匁五分三厘三毛宛

○矢の代りを立る算

越矢の数七百七十本放せし内的より中の矢六百十ヶ所ゆ先八ヶ所の中に

ありぞしらん答へ八分の代りを云

先八十分のものが八分の代りを云

二分八ヶ所ゆ先ゆ八分の代りを云

中矢六百五ヶ所ゆ先ゆ越矢数

七百七十ヶ所ゆ先ゆ越矢数

○二割引の時八を目安ゆ十二を目安ゆ

○二割ゆへの時八十二を目安ゆ

○三割引の時八七を目安ゆ

○三割ゆへの時八十三を目安ゆ

○一割引の時八九を目安ゆ

○一割ゆへの時八十三を目安ゆ

○九割ゆへの時八十を目安ゆ

飛脚積りの算

○八里ゆ歩行人四日に着

旅人出立ゆ先を後飛脚して追付ゆ

一日ゆ四十二里ゆ歩むゆ先ゆ

○弘三丹ゆ七百五拾目ゆ先と三分五厘ゆ歩数

○又ゆ弘三丹ゆ七百五拾目を銀拾五匁ゆ買

○扨又ゆ弘三丹ゆ七百五拾目を價銀拾匁ゆ賣

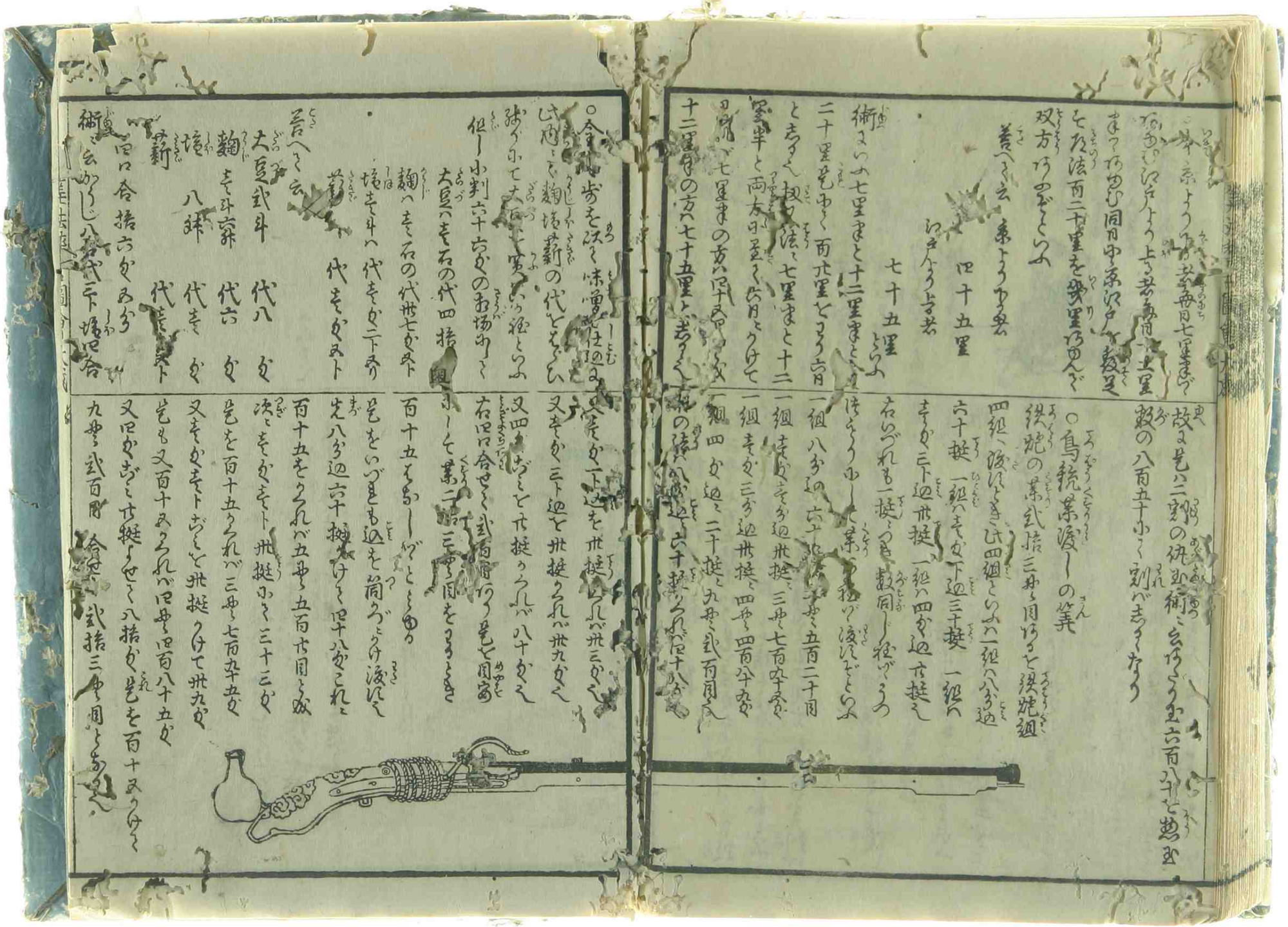
○右の通ゆ

○又ゆ弘三丹ゆ七百五拾目を銀拾五匁ゆ買

○鳥銃の越ゆ八百五拾放しの内六百八拾ゆ

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵



糸ようの物長サ毎日七里まで
なをあり沢庵より上る者毎日一十五里
まつかの実同日中糸沢庵数是
を以法百二十里を幾里ならんぐ
双方ならべくしよ

養へく云　糸ようの長
四十五里
沢庵より上る者
七十五里

術さいの七里まと十二里まとは
二十里先中く百六里ところ百
とちるく却て法七里まと十二
里半と両方日至く六月とうけて
日数七里まの方八日半ゆ
十二里半の方八七十五里ト者ろく

故ゆ先ハ二朔の仇迎術と云ふ
数の八百五十小く別ばまくなり

○鳥銃業渡しの筆
四組ハ渡しときは四組とゆハ一組ハ八分迎
俣銃の業式拾三丈ゆ目ゆると俣銃組
六十挺　一組ハ十ゆ　一組ハ四分迎廿挺
十分ゆ三ト迎廿挺　一組ハ
右のごれも一挺ゆつき数同し程ごうの
一組八分の六十ゆ　五百二十目
一組十分ゆ迎廿挺　三丈　七百四十分
一組十分ゆ三分迎廿挺　四丈　四百分十分
一組四分迎二十挺　九丈　弐百目
十二組の法八分迎六十挺ゆ百八十八分

○合薬を以く味噌仕迎ゆ　丸ゆ一下迎を廿挺ゆ
しめ迎を麹場薪の代とそ云
強くゆて大豆ゆ実ゆ粗とゆ
但し小判六十六分のお場ゆ
大豆ハ十石の代四拾四匁
麹ハ十石の代廿七匁
塩十斗ハ代十匁二下ゆ
薪　代十匁ゆト
三ヘ云

大豆弐斗　代八匁
麹十斗ゆ　代六匁
塩　八斗　代十匁
薪　代壱ト

四口合拾六匁ゆ分
術云ゆ八分代二下塩四合

薪ハ十石ゆ代廿七匁ゆト
塩十斗ハ代十匁二下ゆ
又四ゆ迎と廿挺ゆうれば八十匁
右四口合せく弐百匁ゆ先を用ゆ
ゆ第二ゆ三丈ゆ用をうるき
百十五ゆ　ゆ
先をいづれも迎を前ゆ渡しく
先八分迎六十挺ゆけく四十八匁これと
百十五をうれば五丈　五百六目ゆ
次十匁ゆ十ト廿挺ゆく三十三匁
先を百十五ゆうれば三丈　七百九十五匁
又十匁ゆ迎廿挺ゆうれば廿九匁
先も又百十ゆうれば四丈　四百八十五匁
又四匁ゆ迎廿挺ゆけて廿九匁
九丈　弐百目　合　弐拾三丈ゆ用ゆ
弐拾六匁ゆ八拾匁先を百十ゆうれく

代五り大豆を味代四分三厘にて
七分五りに別又金を代拾六文
五ト代内ふてき炭ヲト薪代を引
強く拾又炭を右七ト分りふくり
大豆弐斗と麦ふ八合とみて
麹を斗六升と麦ふ大豆弐斗へ
四合をつけ塩八升と麦ふく
故ふ四合ヲ拾六文ト拾六文

味噌たきの義

○酒十駄の代金拾又両ふ〻を拾ハき
代銀何程とふ酒を強くつふハ貳樽く
故ヲ十駄ヲて六樽く金相場を両に付六十目
ぐふ〻して代銀四拾又匁なり
法曰先金拾又両に銀の六拾目とうけそれ百目
とる麦を北樽ヲ刻ハを樽の代を〻く
又を拾ふつき何程とふを樽ヲはき
三斗六升入とく
右の四拾又匁ヲ三斗六升ヲうれバを升に付
代銀を弐匁ヲ
を屋ふく

○俗ふく時を考呼
六九く五七八丑子
四八を拾ヲ稱ふり
九ハ科

六 巳 巳 九

六と四八を鼻息右かふ
五九七ヲ

五行之數

へ三い

ふ

ふ

木

上

水

北

子

亥

戌

酉

申

未

午

巳

辰

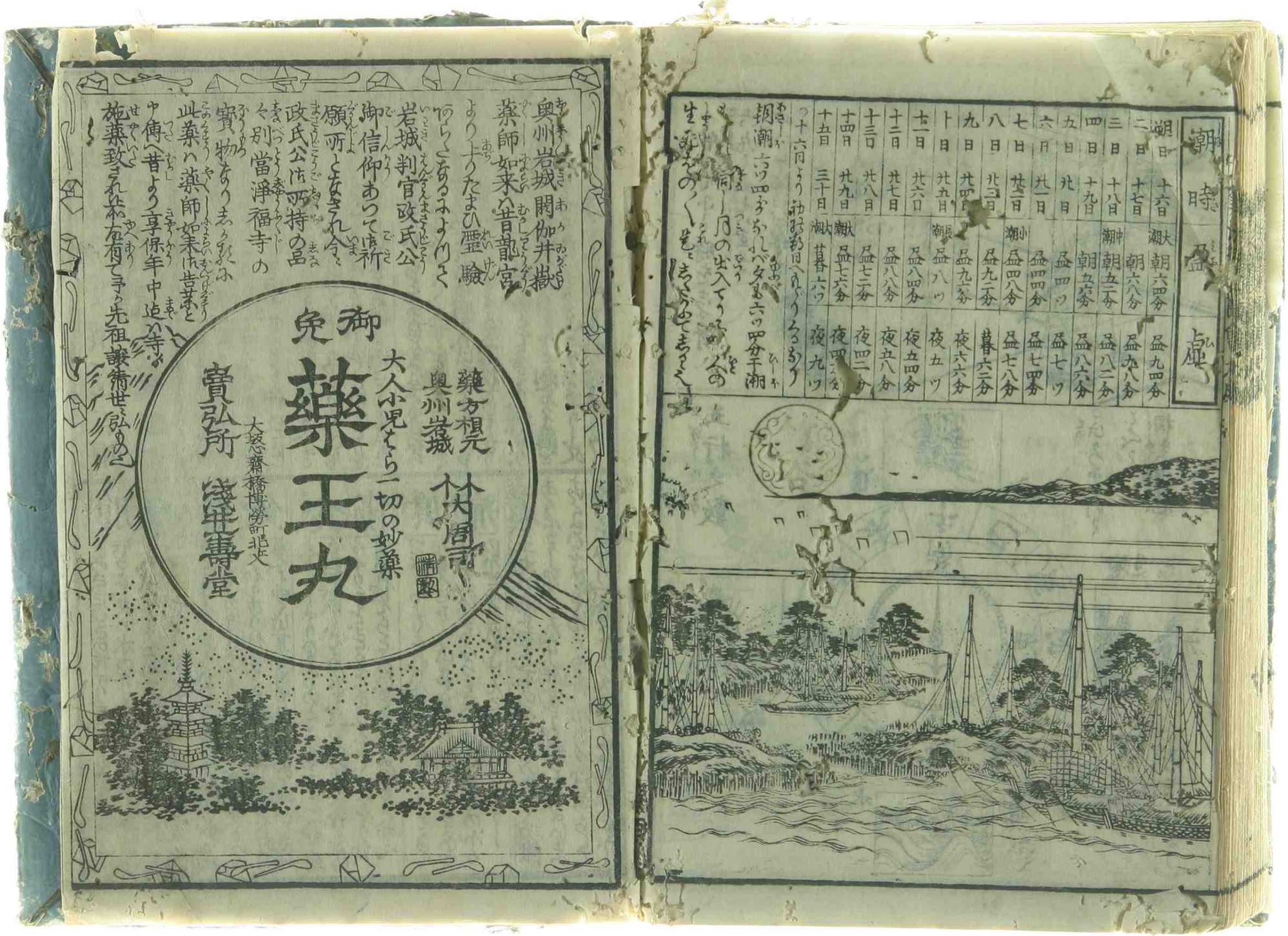
卯

寅

丑

桐生桐越

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵



朝日	十六日	大潮	朝六四分	盈九四分
二日	十七日		朝六八分	盈九八分
三日	十八日	中潮	朝五一分	盈八二分
四日	十九日		朝五六分	盈八六分
五日	廿日		盈四〇	盈七〇
六日	廿一日		盈四四分	盈七四分
七日	廿二日	小潮	盈四八分	盈七八分
八日	廿三日		盈九二分	暮六二分
九日	廿四日		盈九六分	夜六六分
十日	廿五日	長潮	盈八〇	夜五〇
十一日	廿六日		盈八四分	夜五四分
十二日	廿七日		盈八八分	夜五八分
十三日	廿八日		盈七二分	夜四二分
十四日	廿九日	潮大	盈七六分	夜四六分
十五日	三十日	潮大	暮六〇	夜九〇

十六日より初月約日へ[illegible]

朝潮六〇四分ちれば夕潮六〇四分干潮

同一月の出入てうの人の生[illegible]

奥州岩城閼伽井嶽
藥師如来八昔龍宮
より上りたまひ霊験
のらくなるみよりさ
岩城判官政氏公
御信仰あつて祈
願所となされ今
政氏公位牌持の品
々別當淨福寺の
寶物あり志ろ[illegible]ふ
此藥ハ藥師如来ハ昔某と
ゆ傳へ昔より享保年中迄八寺
施藥致され来ハ有て寺ら先祖譲備世弘め

藥方授
奥州嶽 竹内周計

大人小兒さら一切の妙藥
御免
藥王丸
大阪齋橋博勞訥北丈
賣弘所 淺井壽堂

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

藥王丸能書

價一包百銅
同半包四銅

癪氣　あくいなんやよりあさらびおるまひ[illegible]おけがまだいおりるまひ[illegible]あつさむさ長り又あんそのごとうふのうおそるとあるいづれのあく[illegible]まてもあしたふ[illegible]それ[illegible]そのこう神のごとし

痢病　[illegible]あまひのうちのだいおそろしきなりたびくらるあたてもおしもいられとえいちぞうあるひいるるつぐるるいあくこのことりを[illegible]

氣鬱　さうつとうとうちとてのどるさどもむれホあつまりさぶあしく去せんとをとろくあるくあれびさをそれうちさとそのく病れけとりをもちあれびさをそれうちさとそのく病れけとりをもち

酒の二日よひ　さけのみつる夜ひ醒病とて夜そう病すり。はは業はつ[illegible]はまれがいるれど夜ろは酒ど[illegible]ふつる夜ひとることさらまり。又大酒の人はまるの其を夜れびあるどちり

腹痛　あつさむさのたう。あくあたり。りのこひ[illegible]とせ又い水のたり。ぞまてどらいこむ[illegible]はけとりと夜れがいこれたちどころるいあることやうこうそのの功とりあべ

留飲　[illegible]めんの毒うれむさたいこと。黄水を吐食りのきまりあしたもあり。又い食りいのをくむもあり。飲食も腹中はそ結るれあきあくそあく山業を夜れば解の病根を除。

食傷　たくあたりいちのとてのどるるれ[illegible]ものを食べたらいこと。いるづこ。或いこ[illegible]ぞりなどとるとありでのくはたりれ夜れびとらとてのいたとやうはあるて物こ

頭痛　[illegible]たくこれい食事あるたりそうそうたるんさなりはまるれびとあるまいぬ。やまひどちらこと。いけんこそのれうのれせをあれてげんこう神のごと

藥王丸いたなる記とれの外もいろく功能ありこりたとこれ能書る記とも[illegible]まいまちさとるとも奇功あるれ[illegible]あらとて[illegible]なこころみそのうたの功能を[illegible]

大坂賣弘所

心齋橋博勞町北へ

越前屋三右衛門
河内屋重太郎

別家傳妙方藥王丸と同名の素外にあるとかたる紛々素方の紛敷きわ拂ふ[illegible]

家傳妙方 三國一風藥

一服代十六銅
十服ものは百三十四銅

○ろせいつさあるよう　○はつうるよう　○けんへさやまひよう　○たんせきよう　○ほのやろろるひよう　○ねびるよう　○ちのみちよう　○ものさえられ

三國風藥は今世に流布する諸ろの邪熱を解し裏を補ひ寒暖の邪氣をさらせたるうどけ表を解し裏を補ひ寒暖の邪氣をさらせたる妙食の諸毒を消ときと他劑のおよぶあたはざる家傳の秘方なり一服ところ[illegible]その奇功顯然たり

取次所

京都　六條烏棚東洞院西近屋生兵衛　攝州伊丹北小路　鹿島屋嘉兵衛
京都　三條通柳馬場東近屋治助　同　室町上立賣下町　若狭屋宗助
江戸　小傳馬町三丁目書肆　丁子屋平兵衛　同　下谷池端仲町　書肆　岡村庄助
堺　天神北門前　住吉屋弥三郎　同　大道筋錦町　人和屋佐兵衛

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

日本一家
小兒万病
神仙廣德丸

價 一包 百銅
同 半包 四十八銅

疳勞
小兒のかんろうとは、まことにおそろしき病にて、大ぶんさうあるものゝ、ひとりとして、ものゝ、ことわりなれば、とてもあらまいゆゑなり、

癲癇
てんかんの病はその根元をたづぬるに、小兒の時、そのさうあるかとておけば、成人の後、はいかいさしかゝるゆへ、けまらばそのけまらばそのけまらばと、月日をへて、根をたつべし

胎毒
母のたいをひろう、毒さう、甘いその食かまらに、いろ〳〵、或は頭さきでは目ようやまいそのかろのことをきくいたいとく、こまたいとくこと下をやうう、

諸蟲
小兒はむし、せんやをたべものをたべたりのみちの、あるいは、はむし、せんをたべたりのみちの、けしをとるとのむしをとるむしをとるけしをとる

驚風
こゝろのうちに、小兒のたいひやうをそこなひ、むづかしく、ねぶかくなり、ものをいはず、はなをたれ、ちからなく、ものをいはず、ねぶかくなり、ものをいはず、ねぶかくなり、ものをいはず、ねぶかくなり

癪血

[illegible]

痔疾

[illegible]

中風

[illegible]

神養

[illegible]

血暈

[illegible]

黴毒

[illegible]

帶下

[illegible]

さんせんさんごの丸

[illegible]

本家調合所　大坂さくさの橋むくらう町ふ八　河内屋重太郎

賣弘取次所追く諸國拡がり家ッ鑑はんこうべ伝乳の上庄求め可ッしル

十二月異名

正月	芳春
二月	青陽
三月	中和
四月	鶯時
五月	新夏
六月	盛夏
七月	鶉火
八月	新涼
九月	桂秋
十月	暮商
十月	大章
十月	陽止
十月	閑正
十月	冰壯
十月	正冬
十二月	嘉平

捕府　曉鐘成纂校並書

天保二辛卯年三月發

書林　大阪　京　吉野屋　扶桑屋　城屋　江戸　吉屋

丙　巳　巳

同　子　屋　平兵衛　林新兵衛

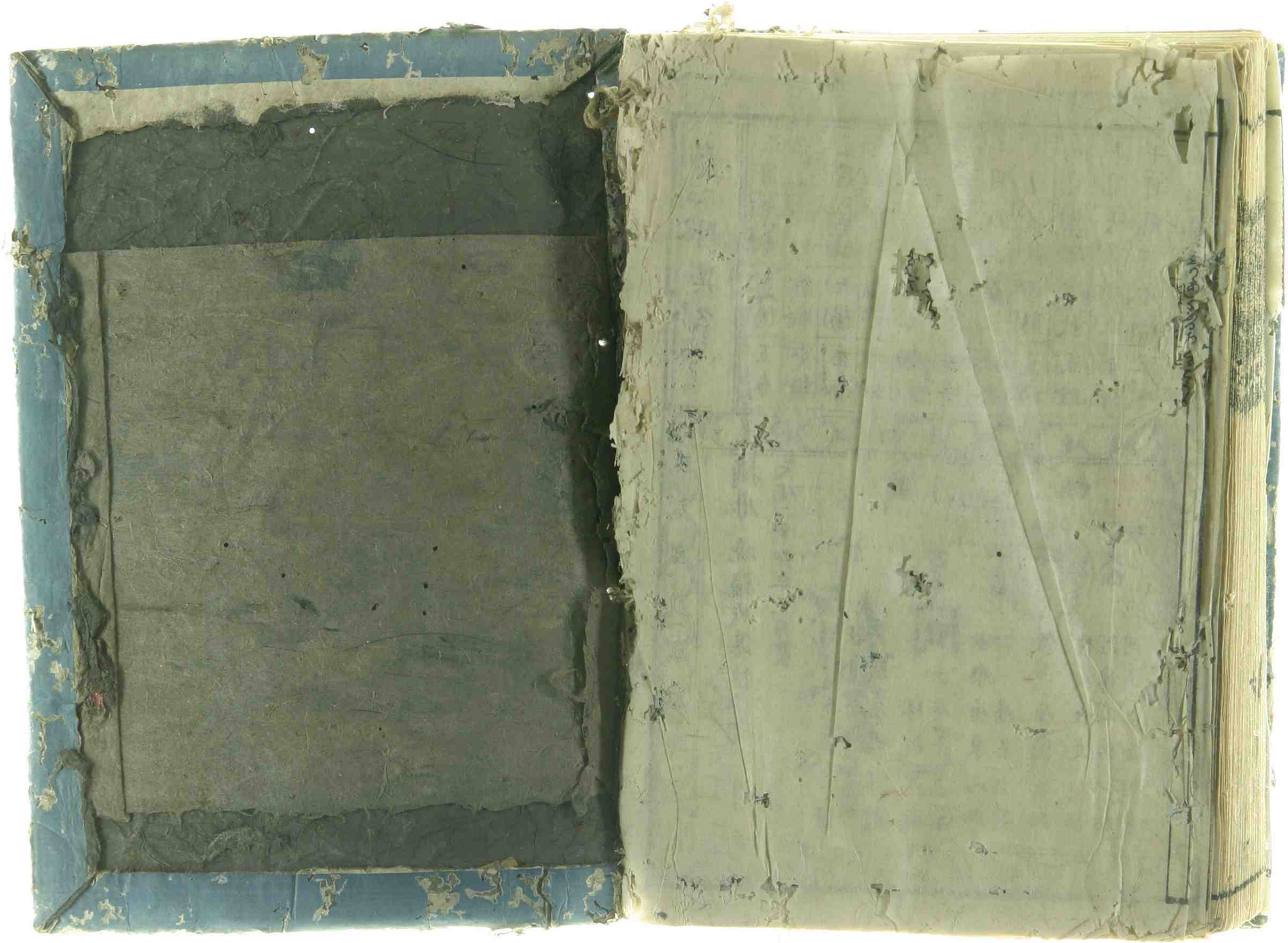
永樂屋東四郎　松屋善兵衛

任吉屋彌三郎

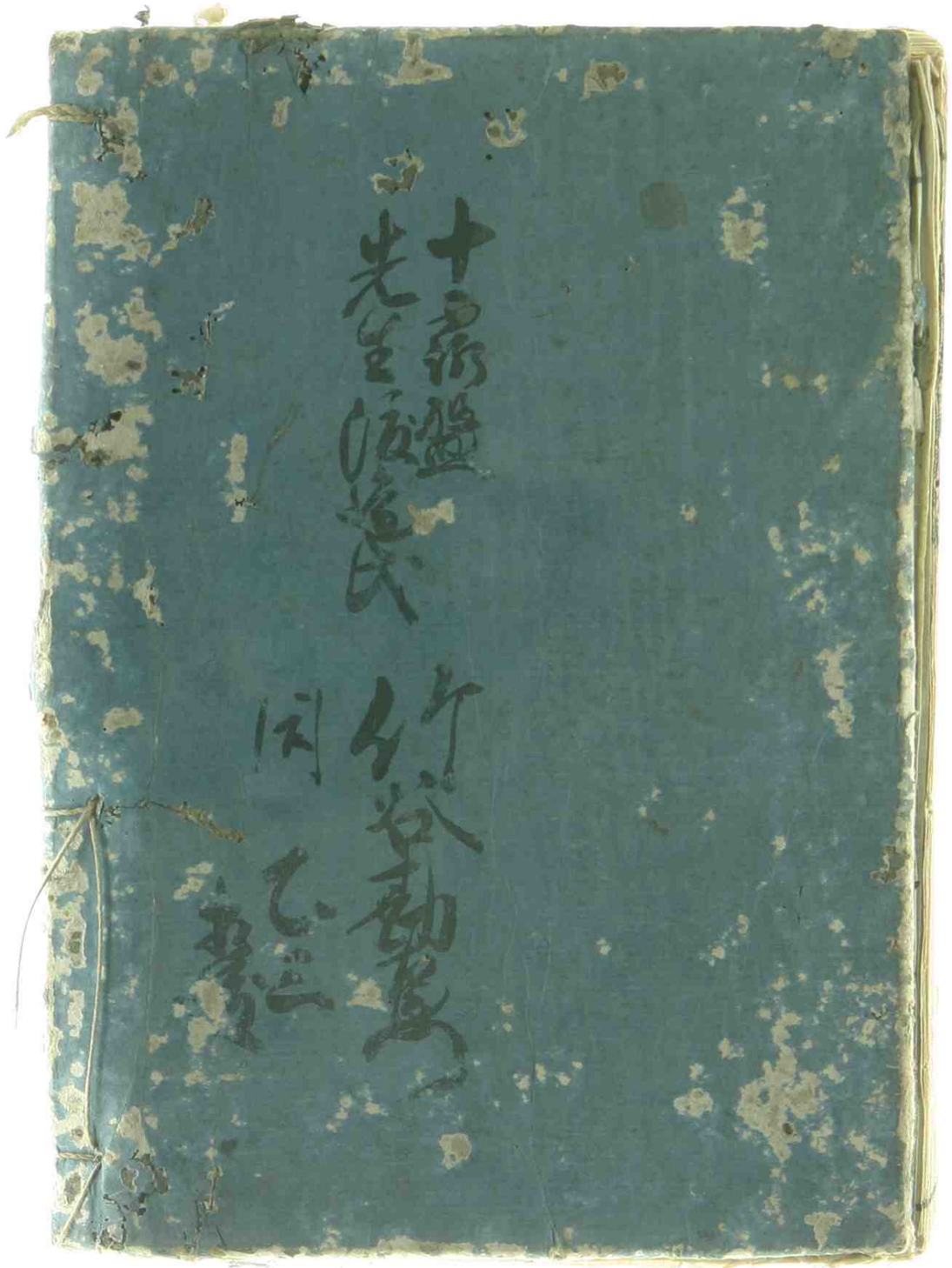
檜皮屋友七　河内屋佐助

河内屋長兵衛

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵